http://decfamily.p1.bindsite.jp/2018/

We 35R

No.443　18/11/16

自動運転と人命

問題：クルマの自動運転中、信号無視をして道路を渡ろうとしている５名の若者か、信号を守って横断している高齢者５名のグループのどちらかの中に、クルマを突っ込ませなければならなくなってしまった。さて、自動運転のＡＩは、いったいどちらの側に突っ込むように判断すべきだろうか？

＊

まあ、こういう場合がないようにすることが大切だし、なるべく早く事態を察知して、このような判断を下す前段階の判断を考えたい所だが、世の中何があるか分からない。最近、次世代の技術としてクルマの自動運転が喧伝されているが、事故が起こった後で責任の所在が問われるようでは困ってしまうということから、実現に向けてさまざまな分野・方向からの動きが本格化している。新聞記事を引用しよう。（朝日DIGITAL 20181115）

＊

自動運転車、誰の命優先？
事故想定、米のチームが調査

自動運転の車が事故を避けられない場合、歩行者５人をはねるのか、壁に車をぶつけて乗員を犠牲にするか――。米マサチューセッツ工科大の研究チームは、自動運転をめぐる倫理上の問題について、世界の約４千万人から得た回答を分析した。

研究チームは、2016年６月からネット調査「モラル・マシン」を開始。自動運転の事故で、誰かが死亡せざるを得ない13のシナリオを設定。子どもや高齢者、ホームレスや高所得者など誰の命を優先するかを尋ねた。233カ国の約４千万人から回答を得たという。

回答を分析したところ、国や年齢、性別によらず「ペットより人間の命を優先する」「より多い人数の命を優先する」「子どもや妊婦の命を優先する」ことを重視する傾向だった。

アフリカのナイジェリアや南米ペルーなど経済格差が大きい国では、世界平均と比べて、所得の高い医師の命をホームレスより優先するなど、欧米とは大きく異なる傾向も見られた。

日本は、世界で最も歩行者の命を優先していた。一方、助けられる人数で判断を決めることはほとんどなく、赤信号を無視して渡っている人には世界で４番目に厳しかった。

研究チームは「自動運転の倫理基準を決めるのは専門家の議論だけでなく、市民が受け入れられるものでないと役立たないだろう」としている。

研究成果は、英科学誌ネイチャーに掲載された。

■倫理面、日本での議論はこれから

自動運転の普及を前に、ドイツは昨年、世界初の倫理ガイドラインを発表した。「人命に優先順位を付けざるを得ない状況にならないようにすべき」とした上で、それでも避けられない場合に、年齢や性別、健康状態を考慮するのは倫理的に認められないと記した。一方、ほかの国では、多人数と少人数なら、多人数のグループを優先すべきだという考え方もある。

日本でも各省庁で制度面の検討が進むが、今井猛嘉・法政大教授（刑法）は「自動運転の倫理での議論が少ない」と言う。日本刑法学会は来春、シンポジウムを開き本格的な議論を始める予定だ。

＊

信号無視に厳しいというのは、国民性をよく表していると思う。車が通らなくても、日本人は赤信号を守っているものだ。しかし、ここには「人命をどう考えるのか」という根本的な問題が提起されているのである。